

### 第 3 問 答案用紙< 1 > (会 計 学)

**問題 1**

**問 1**

(単位：百万円)

(1)	Bの割引前将来キャッシュ・フローの総額	457
(2)	A, B, Cの減損損失の合計額	290
(3)	Aの減損損失配分後の帳簿価額	222
	Bの減損損失配分後の帳簿価額	333
(4)	Bの減損損失配分後の帳簿価額	350
	Cの減損損失配分後の帳簿価額	341

**問 2**

(1) 棚卸資産の簿記切り下げに関しては、正味売却価額が用いられると考えるべきである。

なぜならば、通常棚卸資産は販売によって投下された資金の回収を図るという特徴があるためである。そのため、投資が回収される形態に応じて判断されるべきであり、販売によって投下資金の回収が図られるという特徴を考えればその資金回収額を示す棚卸資産の正味売却価額が、適正な棚卸資産の回収可能と考えるべきである。

(2) 固定資産の減損処理に関しては、回収可能価額が用いられると考えるべきである。

なぜならば、通常固定資産は使用、売却のいずれかの手段によって投下された資金の回収を図るという特徴があるためである。そのため、使用による回収可能額である使用価値と、売却による回収可能額である正味実現可能価額のいずれか高い金額が、回収可能価額と考えるべきである。

### 第 3 問 答案用紙< 2 > (会 計 学)

問題 2

問 1

(単位：百万円)

①	210	②	750	③	15
④	30	⑤	-88	⑥	20
⑦	37	⑧	-60	⑨	37
⑩	320	⑪	3,775		

問 2

会社法の規定によれば、株式会社は、株主総会または取締役会決議により、剰余金の配当を  
 .....  
 いつでも決定でき、また株主資本の計数をいつでも変動させることができる。このため、  
 .....  
 貸借対照表や損益計算書のみでは、資本金、準備金および剰余金の数字の連続性を把握する  
 .....  
 ことが困難であるため、株主資本等変動計算書が導入されたのである。

## 第4問 答案用紙<1> (会 計 学)

### 問題 1

#### 問 1

その他有価証券については、その多様な性格から事業遂行上等の必要性から直ちに売却・換金を行うことが制約を伴う要素もあり、その評価差額を直ちに当期の損益として処理することは適切ではないため、原則として全部純資産直入法が採用された。

#### 問 2

部分純資産直入法が認められた背景には、保守守備の考え方がある。すなわち、収益は時期的に遅く金額も低めに計上し、逆に費用は時期的に早くかつ金額も高めに計上しようとする考え方である。

#### 問 3

固定資産の減損処理では資産を小さめに計上するため、相対的に大きな割引率を用いられる。これに対して退職給付債務の計算では負債を大き目に計上するため、相対的に小さい割引率が用いられることになる。

### 問題 2

#### 問 1

繰延税金負債の金額：  $60 (x t \times d)$  億円

#### 問 2

負債を、報告主体が支配をしている経済的資源の引き渡し義務のあるものと考えた場合には、繰延税金資産はこの定義に該当しないといえる。なぜならば親会社はその在外子会社の配当政策を意図的に変更することで配当を回避できる場合がある。その場合には引き渡し義務は発生しているとはいえ、負債には該当しないと考えられるためである。

#### 問 3

当期純利益に参入される収益と費用については、税引前当期純利益と税効果額を調整した当期の税金費用とを対応させるため純額で表示することになる。  
その他包括利益についてはいまだ未実現の項目であるため当期の損益には計上されないが税効果を考慮した実質的な純資産の増加・減少を明らかにするため、税効果を控除した後の金額で表示するのが原則とされている。

## 第4問 答案用紙<2> (会 計 学)

### 問題3

#### 問1

①本問の仕訳の基礎には、自己株式に係る付随費用は自己株式本体の取引と一体となり資本取引により生じるものとする考え方による。②これに対し、現行制度上においては、自己株式に係る付随費用は、株主との間に生じるものではなくむしろ会社の業績に連動する財務費用項目と考えられることから損益取引により生じるものと考えられている。③したがって現行制度上においては借方は自己株式ではなく、支払手数料等の項目をもって営業外費用として処理されることになる。

#### 問2

企業集団の観点で考えた場合には親会社の保有する自己株式と同様の性格であるためである。

#### 問3

連結子会社が保有する自己株式を消却した場合でも当該連結子会社の資本の変動および親会社の持分比率の変動はないため、この取引によっても連結貸借対照表上の純資産の部に影響は生じないものと考えられる。

### 問題4

#### 問1

当期純利益は1期間にわたり生じる性格があるため、その構成要素である収益および費用も期中平均相場により換算すべきあると考えられる。

#### 問2

項目の名称：為替換算調整勘定  
差額が表すもの：為替換算調整勘定については在外子会社に対する投資持分から発生した為替換算差額の性格を有し、在外子会社の経営成績とは無関係に発生するものであることからいまだ連結上の純損益に計上されていないという性格を有している。

#### 問3

その他包括利益は、当期純利益と異なり一期間にわたって生じるという性格を有していない。そのため、その他包括利益合計については期中平均相場による換算はされないことになる。

## 第 5 問 答案用紙< 1 > (会 計 学)

問題 1

問 1	<p>のれんを企業結合の成果として生じた超過収益額と考えるならば、この収益とそれに対応する費用としてのれんを償却し、適切な期間損益計算を行うべきである。</p>
問 2	<p>数理計算上の差異は予測と実績の乖離のみならず予算数値の修正も反映されることから各期に生じる差異を直ちに費用として計上することが退職給付に係る債務の状態を忠実に反映するとはいえない面があるため、毎期費用処理をするのが原則とされている。</p>
問 3	<p>日本の会計基準においては、当期又は過去の期間にその他の包括利益に計上された全ての項目についてリサイクリングを行っている。これにより、会計情報の信頼性を高め、純利益の総合的指標としての有用性を高めることが可能となる。</p>
問 4	<p>研究開発費は発生時に将来の収益を獲得できるか否かは不明であり、また研究開発計画が進行しても、将来の収益の獲得が確実とはいえない性質がある。そのため研究開発費を資産計上することは問題があるといえる。</p>
問 5	<p>親会社と子会社は、それぞれが置かれた環境下のもとで独自に経営活動を行っている。そのため親会社と各子会社の会計方針を画一的に統一することは、かえって連結財務諸表が企業集団の財政状態、経営成績およびキャッシュ・フローの状況を適切に表示しなくなるという問題が生じ得る可能性があることになる。</p>
問 6	<p>当期純利益を測定する上での費用配分、当期純利益と株主資本との連携及び投資の性格に応じた資産および負債の評価等がある。</p>
問 7	<p>購入のれん方式を採用している日本の会計基準においては、のれんは投資原価の一部であり、また親会社持分相当額しか計上されていないという点が他の資産、負債とは異なる。また親会社持分を一部売却した場合、この持分に対応する償却費が次期以降も認識されることになり、親会社株主に帰属する当期純利益が適切ではないという問題もある。</p>

## 第 5 問 答案用紙< 2 > (会 計 学)

**問題 2**

(単位：千豪ドル)

	年度	借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)	過年度分	利 益 剰 余 金	200	の れ ん	200
	当年度分	その他の販売費及び一般管理費	100	の れ ん	100
(2)	過年度分	退職給付に係る調整累計額	45	利 益 剰 余 金	45
	当年度分	その他の販売費及び一般管理費	5	退職給付に係る調整累計額	5
(3)	過年度分	利 益 剰 余 金	300	開 発 費 ( 無 形 資 産 )	300
	当年度分	開 発 費 ( 無 形 資 産 )	100	開 発 費 償 却	100
(4)	過年度分	建 物	100	利 益 剰 余 金	100
		利 益 剰 余 金	40	建 物 減 価 償 却 累 計 額	40
	当年度分	建 物 減 価 償 却 費	20	建 物 減 価 償 却 累 計 額	20
		建 物 減 価 償 却 累 計 額	60	建 物	100
		固 定 資 産 売 却 益	40		
(5)	過年度分	機 械	20	機 械 減 価 償 却 累 計 額	100
		固 定 資 産 再 評 価 剰 余 金	80		
	当年度分	機 械 減 価 償 却 累 計 額	10	機 械 減 価 償 却 費	10
		利 益 剰 余 金	10	固 定 資 産 再 評 価 剰 余 金	10

**問題 3**

(単位：千円)

(1)	243, 830	(2)	392, 840
-----	----------	-----	----------

**問題 4**

(単位：千円)

(1)	367, 392	(2)	3, 686, 000	(3)	561, 816	(4)	577, 231
(5)	923, 227	(6)	164, 622	(7)	636, 815		